

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)



空気を変える? 「笑顔」の力

子どもが約350回、大人が約15回。この数字は、一日に笑う回数だそうです。皆さんは毎日どれぐらい笑っていますか。

今年の3月まで私は学校に勤めていました。子どもたちのふとした瞬間に見える小さな変化や成長が大きな楽しみであり、体が震えるほど感動し、教師という仕事に充実感と喜びを感じていました。そんな私には大切にしていたことがあります。それは子どもたちと出会う朝の教室は、必ず「笑顔」であいさつをすることです。

笑顔が必要だと感じたのは、ある先輩が担任するクラスの子どもたちを見たときでした。昼休みの放送で先生の生歌を放送したり、ハロウィーンでは仮装をして廊下を歩いたり、本当に生き生きと自由に生活する子どもたちの表情が、私には光り輝いて見えました。先輩を「自分とは何が違うのだろう」と観察していると、いつも笑顔で過ごしていることに気が付き、ま

ずはそれだけでも真似をしようと考えました。毎日続けることは難しく、体調や気分によって左右されることがありましたが、笑顔を意識して過ごすうちに、肩の力を抜いて子どもたちと向き合うことができるようになっていました。

気が付くと、教室には子どもたちの笑顔が増え、前向きな言葉が生まれるようになりました。私が笑顔で過ごしたことが、子どもたちにどれだけ影響したかは分かりませんが、笑顔の大切さを知る機会となりました。

現在、私は市内のさまざまな地区の方とお出会いすることが増えました。温かな笑顔で迎えていただくたびに、笑顔のもつ大きな力に勇気と安心をもらっています。

市内をさらに明るくするのは、皆さんの笑顔かもしれません。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館 (☎23 5992)



谷古墳全景



横穴式石室内部



谷古墳は、野村大池の北にあり、谷町を流れる和田谷川との間にある尾根に築かれた横穴式石室の古墳です。後世の開発により古墳の盛土は大きく失われ墳形は不明です。石室の天井が地上に露出、玄室(墓室)との境の天井石は陥没、南側にある羨道(墓道)も完全に埋没するなど状態は良くありません。しかし、玄室の広さは奥行き約4.5m×幅約1.7m×高さ約2m、羨道の長さも約4.5mと推測され、石室の全長は約9mと考えられていることから、市内の横穴式石室としては最大級のものとなります。遺物は見つかっていませんが、石室の構造から、古墳時代終末期である7世紀の築造と考えられます。

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



臨時増発の時刻表は市ホームページ=QRコード=に掲載

大阪・関西万博の期間(4月13日~10月13日)中、JR加古川線「西脇市駅」谷川駅間の電車が1日2往復臨時増発されています。市ではJR加古川線「西脇市駅」谷川駅間を3名以上で利用された団体に乗車券補助する制度を設けています。また、沿線ではさまざまなイベントを開催。1日乗り放題の「ぶらり加古川線tab」も発売されています。

乗るぞ100回! JR加古川線



西脇市長 片山象三

市内は福岡から来られた鉄道マニアの方やスタンプラリーを楽しむ方、旅行や帰省と思われる方々などにぎわっており、大変うれしく感じました。私は4日間で計16回乗車しましたが、その間、兵庫県庁で公共交通を担当されている幹部職員の方々に複数回お会いしました。休日に積極的にローカル線を利用されていることに頭が下がる思いです。担当課長さんの「万博終了までに100回乗る」との目標を聞き、私も「乗るぞ100回! JR加古川線」を宣言しました。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。新しいものだけでなく今あるものを上手に利用できる工夫をして次代につなげることが重要です。ぜひこの機会にJR加古川線「西脇市駅」谷川駅間を利用しましょう!

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

レンタサイクルでまちを散策

~JR加古川線維持・利用促進地域協議会の紹介~

JR加古川線維持・利用促進地域協議会は、沿線の自治協議会3団体(黒田庄まちづくり協議会・比延地区自治協議会・久下自治振興会)が連携し、加古川線の維持存続と利用促進のために活動しています。その一つにレンタサイクルを行っています。電車で各駅へ行き、駅から自転車でもまちを散策しませんか。



レンタサイクルを利用し地域を巡ることで、まちの雰囲気や自然の美しさをより身近に体感できます。自転車ならではのスピード感で路地や公園、カフェなどをぜひ楽しんでください。折り畳んで電車に持ち込むこともできますよ。



西脇の自然 615

ウツギ

アジサイ科



ウツギは茎が中空になっていることから「空木」と書き、アジサイの仲間です。日当たりの良い山野でよく見られます。落葉低木の植物で、5~7月ごろにかけて、少し垂れ気味の枝先の方に美しい白色の小さな花をたくさん付けます。

別名はウノハナと呼ばれ、唱歌「夏は来ぬ」の歌詞の中に出てくる「ウノハナの匂う垣根にホトトギス早も来鳴きて…」の花としてもよく知られています。ウノハナとホトトギスと聞けば、初夏の陽気を感じさせられます。

最近では、ホトトギスの鳴き声を聞くことも少なくなり、寂しいかぎりです。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】